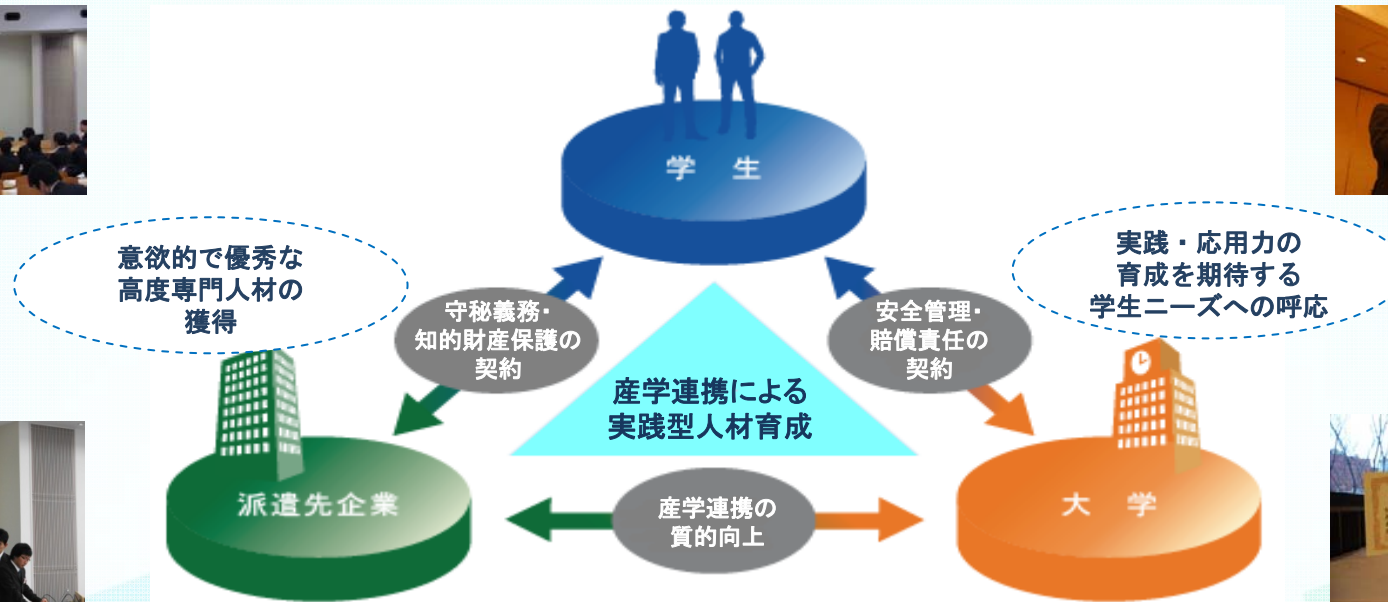
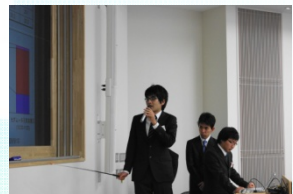


金沢大学

分野混成チーム派遣によるモノづくり教育～消費者の立場で商品開発に携わる高度人材養成～

【取組概要】 大学院自然科学研究科博士前期課程(修士課程)の学生を対象に長期インターンシップを実施し、新製品開発の全てのプロセスを担当できる高度職業技術者、研究開発技術者育成を目的とする。

- 特長①分野混成チームの派遣モノづくりに重要な異分野技術者との協力
②消費者の立場からのモノづくり消費者が本当に必要とする製品とは？



- 【成果等】 ◆コンペティション形式による学生間の競争原理を導入(表彰)→異分野技術者の協調とチームワークの意欲向上。
◆「創成研究 消費者向けものづくりセミナー」の開催(ヒット商品を生み出してきた本学卒業生の現役エンジニア)
→「消費者向けものづくり」の視点を持ったインターンシップ。
◆当事業を通じた産学間の人的交流の拡大(産学連携教育の質的向上)
→共同研究のブースターなった事例や、本学卒業生の採用へ。

**産学連携による実践型人材育成事業 ―長期インターンシップ・プログラム開発―
最終評価結果**

大 学 名	金沢大学
教育プロジェクト名称	分野混成チーム派遣によるモノづくり教育 ―消費者の立場で商品開発に携わる高度人材養成―
事業責任者	理工研究域自然システム学系 教授 大谷 吉生

事業概要

大学院自然科学研究科博士前期課程(修士課程)の学生を対象に長期インターンシップを実施し、新製品開発の全てのプロセスを担当できる高度職業技術者、研究開発技術者育成を目的とする。

特長①分野混成チームの派遣モノづくりに重要な異分野技術者との協力

②消費者の立場からのモノづくり消費者が本当に必要なとする製品とは？



最終評価結果

(総合評価) A: 所期の計画と同等の取組が行われた

コメント

《優れた点》

1. 本プログラムは、大学院自然科学研究科博士前期課程(修士)の学生を対象に、消費者の立場からの具体的なモノづくり、製品開発を経験させ、モノづくりに関する高度人材養成を狙ったものである。また、専門分野の異なる学生の混成チームでの連携を意図した点も一つの特徴である。当初はプロジェクトの趣旨が生かされない点もあったが、モノづくりという視点で地域内産業を巻き込んで柔軟に対応し、特に中間評価で指摘した(1)テーマ設定での3者間での柔軟な話し合い、(2)分野混成学生の連携の工夫、競争意識を高める工夫、(3)当プログラムの教育目標を具体的に明示し、派遣先特有の目標につなげて示すこと等が適切に実行され、産学連携を基軸とした高度人材育成システムを具体化させた。
2. カリキュラムとしての単位認定システムが機能しており、企業によるセミナーの開講などの教育への参画を呼び込み、平成19、22、23年度それぞれに学内の類似教育プロジェクトが採択されるという成果につながった。
3. 平成17年度から21年度にかけての産学連携教育の経験が、平成24年度以降の大学院改革に大きな影響を与えたことも成果と言える。本プログラムは、今後展開される人材育成の橋頭保となっている。

《改善を要する点》

1. 各チームに異分野の学生を連携させる大学側(教育者)の提案は、プログラムの主役である学生や企業側の意図や実情を反映できていない。事後のプログラムでは学生に何を学ばせるのかを①共通目標、②派遣先ごとの個別目標に分けて明示し、履修条件や成績評価基準も含めた評価体制を具体的な制度として構築して、大きなPDCA サイクルが回るようにすれば、一層の発展が期待できる。
2. 今後はアジアの学生の比率が高まり、異文化学生との混成が課題となる。より一層の工夫が必要になるだろう。